



武蔵野市水環境連続講座「水の学校」とは

「水の学校」は、市民のみなさんといっしょに、水を知り、考える連続講座です。くらしの中の身近な水循環、下水道の役割や、水に親しみ水を楽しむ知恵、そして世界規模の水課題、地球規模の水循環まで、水を取りまくさまざまなテーマを取りあげ、楽しみながら考えを深め、行動へつなげます。2014年度からスタートし、3年目が終了しました。

連続講座レポート

最終講座・修了式

「水の学校」から始める武蔵野の未来の水

平成28年12月10日、平成28年度の水の学校連続講座の最終講座と修了式を行いました。「水の学校」名誉校長を務める、水ジャーナリストの橋本淳司氏を講師に迎え、開校式と同じ武蔵野プレイスで、今年一番印象に残った「水の話」を話したあと、過去5回の「水の学校」の振り返りをし、講座を受講して変わったことなどを共有しました。これからどんなことができるかを考えるため、先輩修了生であるサポーターから現在の活動報告をいただき、今年度の受講生もこれから水に関してやってみたいことを、考え、話し合い、今後につなげる形で修了となりました。修了式では、市長から修了証の授与とともに「卒業ではなく修了で、これからの活躍を期待しています」というメッセージが贈られました。

グループディスカッション

グループごとに①自分の行動の変化、気になるようになったこと ②人に伝えたいこと、もっと知りたい、やってみたいことを話し合いました。「街中や旅行先などで、雨水を使っているところなどに気付くようになった。」「食器を洗うのに罪悪感がある」との気持ちや気づきの変化が挙がっていました。それだけでなく、「水道管の口径の変更について」など具体的な取り組みや、すでに行った取り組みについても話題があがり、水の学校の効果と受講生の行動の早さに驚かされました。

グループワーク

「やってみたい」「知りたい」「深めたい」水のことを各々が考え、似たテーマの人とグループになり話し合いました。広報からイベントまで、ツールは数多く出ましたが、どのグループも「ほかの人に知ってもらうためにはどうしたらいいだろう」というところから話し合いを進め、最後に班ごとに発表しました。テーマとして「武蔵野市の水のおいしさ」を伝えたい」という参加者がとても多く、6班中3班がこのテーマで討議していました。サポーターは別グループで今までの活動を踏まえ、より深い話し合いを行いました。

受講生の声より

- 6回参加して沢山のことを学びました。もっと深く知りたいことも沢山あったので学び続けていきたいと思います。
- 水を通じて武蔵野を知る、自然を知る、仲間を知る、実り多い講座でした。「卒業」はしていません。



サポーター活動報告

●サポーターミーティングを行いました

平成29年1月28日、平成28年度の受講生から新しくサポーターとなった方をお迎えして初めてのミーティング、当日は新旧サポーターあわせて14名が参加し、サポーターはどんなもの？これからの水の学校は？こんなことをしてみたい！を話し合いました。

2月23日は、これからの具体的な活動を話し合う場として7名が参加し、まちあるきで行きたいところ・地図で紹介したいところ、イベント出展のときにとりあげたいこと、活動の広げ方などを話し合いました。

●湧水めぐり

3月25日、新旧サポーターの顔合わせを兼ねて湧水めぐりを開催しました。14名が東大駒場キャンパスに集合し、構内の「一二郎(いちにろう)池」の湧水を見学、銀杏並木を通り抜け、坂下門付近の湧水に沿って散策しました。駒場公園の和館、駒場野公園のケルネル田んぼと湧水の源にも足をのびました。お花見には少し早いタイミングでしたが、咲き初めの桜を楽しむことができました。

水コラム no.20: 武蔵野市で行っている下水道事業を より広く知っていただくためには？

水の学校では、私たちの暮らしと「水」の関わりの中で、市民にできることは何かを考える場面が多くありました。一方で、市ではどんなことをしているのか？という疑問に対して、市から常に十分に情報発信してきたとは言えないのではないかということが、職員としても受講生とのかかわりの中で気付いてきた面があります。

たとえば、大型の雨水貯留施設、浸透施設、下水道管の耐震化やマンホールトイレといった災害対策について、武蔵野市では「武蔵野市下水道総合計画（2014）」などの計画を立て、公表し、着実に実施しています。しかし、専門知識がない人がふと疑問を感じた時、すぐに受け取れる情報にはなっていなかったのではないかと。また、市報や市ホームページ、季刊むさしの、そして水の学校ニュースレターでその都度情報発信してきましたが、もっとよい形があるのではないかと改めて気がつくことができました。

下水道事業は、公共の事業として、市民の皆さまからいただいている下水道使用料や税金などを使い行っています。現在や将来の事業のために使用料が改定されることもあります。事業の内容については水の学校の受講生だけではなく、より広く市民の皆様に理解していただくことが必要だと考えています。どんなものが市民に求められているか、何をどのように伝えていきたいか、水の学校サポーターの皆さんのアイデアもいただきながら、職員で話し合いを重ねています。



3/21（火）ステップアップ・ワークショップを開催しました！

ステップアップ・ワークショップは、「水の学校」修了生・受講生を対象に2015年度からスタートした参加型講座です。

武蔵野市が現在取り組んでいる水に関わる施策について、担当者から直接説明を聞いたり、関連する現場を見た後で意見交換し、武蔵野の水と生活・まちの関係、そしてこれからのあり方を共に考えます。

平成29年3月21日（火）、武蔵野市第一浄水場にて、「武蔵野市の水道～伝えたいこと、知りたいこと」をテーマに、ステップ・アップワークショップを行いました。当日は市水道部、下水道課職員が、集まった9名のサポーターの皆さんと内容の濃い意見交換をしました。

第1部 子どもたちに武蔵野市の水について考えてもらうには？

平成29年度から浄水場では小学校4年生向けの社会科見学プログラムを実施する予定です。サポーターの皆さんにこのプログラムを誰よりも早く体験してもらい、わかりやすくするためにはどのようにすればいいのか、何を伝えるべきかなど、さまざまなご意見をいただきました。



第2部 職員との意見交換会 武蔵野市の水道について知りたいこと

平成28年6月1日号市報むさしの10面では、都営水道との一元化について取り上げています。このことについて関心を持ってご覧になったサポーターが多く、今武蔵野市の水道水の水源となっている井戸がどうなるのか、味は変わるのか、どんなリスクがあるのかなど、多くの質問とともに、現在の「水の学校」をはじめとした広報や啓発の方法についても、市と市民をつなぐサポーターとしてのご意見を多くいただきました。

当日出た質問への回答について、いくつかご紹介します。

- 都営水道との一元化へのステップについて
都営水道との一元化を目指して話し合いをしていますが、いつ、どのようにするかなど、具体的にはまだ決まっていません。
- 水源について
都営水道は利根川や多摩川などの河川の水だけを高度処理して水道水にしているイメージがありますが、実際は河川の水だけではなく、多摩地区にある約250本の井戸からくみ上げた地下水も利用して運営しています。



「水の学校」は2017年度も開校します！

「水の学校ニュースレター」をお読みいただきありがとうございました。「水の学校」は、2017年度も水に親しみ、水を考える講座として開校予定です。詳細は5月上旬以降、チラシ・市報（5/15号）などでお知らせいたします。多くの皆様のご参加をお待ちしております！

【お問合せ】武蔵野市環境部下水道課 「水の学校」担当 TEL：0422-60-1914（平日午前8:30～午後5:15）

